



写真展

広河隆一 戦場の子どもたち

翻弄される命を見つめた50年の記録

パレスチナ、イラク、アフガニスタン、コンゴ、チェルノブイリ、福島

〈写真〉爆撃の跡に立つガザのパレスチナの子ども。国連の学校の校庭にいた時、近くにイスラエルの爆弾が落ちて、気が付いたら体の上に他人の死体の一部が覆いかぶさっていたという。それ以来話すことができなくなった。
ガザの難民キャンプ 2009年1月

2018年 3月8日[木]—3月17日[土]

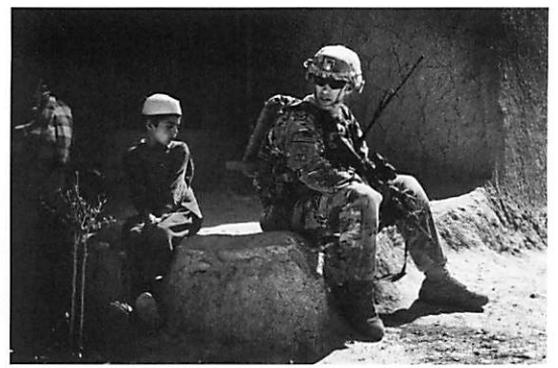
11:00—20:00 | 初日15:00より、最終日17:00まで〈休館日3月12日[月]〉

東京芸術劇場 | 5階 ギャラリー2 | 入場無料

[主催] 月刊誌 DAYS JAPAN、NPO法人 広河隆一写真展事務局、広河隆一事務所



下水があふれた難民キャンプの路地を歩くパレスチナの女の子。1984年



アフガニスタンの村をパトロールして休む米兵のそばの子ども。2011年



甲状腺が心臓に転移したウクライナの女の子、この子は2か月後に死亡。1996年



イスラエルの爆撃で火傷したパレスチナの女の子。1982年

フォトジャーナリスト広河隆一が、
1967年に中東の取材を始めて以来、2017年で50年を迎えました。
人間の生存と尊厳が脅かされている場所を「人間の戦場」と呼び、
そうした場所で生きる子どもたちの悲しみと喜びの姿を写してきました。

【主催】月刊誌 DAY SJAPAN、NPO法人 広河隆一写真展事務局、広河隆一事務所

（後援と協賛）UNHCR駐日事務所、日本写真家協会、日本写真協会、共同通信社、毎日新聞社、北海道新聞社、琉球新報社、河北新報社、日本ペンクラブ、沖縄・球美の里、キリスト新聞社、原水爆禁止日本国民会議、原爆の因丸木美術館、チェルノブイリ子ども基金、DAYS救援アクション、DAYS被災児童支援募金、土門拳記念館、日本カタログ正義と平和協議会、アウレオ、SIGMA、パレスチナ子どもの里親運動、未来の福島こども基金、週刊金曜日、パルシステム東京、ふくしま30年プロジェクト、福島の子どもたちを守る会・北海道、山田洋次（映画監督）、吉永小百合（女優）、加藤登紀子（歌手）、赤川次郎（作家）、下重暎子（作家）、堤未果（国際ジャーナリスト）、中村敦夫（俳優・作家）、早川敦子（津田塾大学教授）、樋口健二（フォトジャーナリスト）、広瀬隆（作家）、河合弘之（弁護士）、石井竜也（アーティスト）、石川文洋（報道カメラマン）、ナターシャ・グジー（歌手・バンドウラ）、井戸川克隆（前双葉町長）、吉岡達也（ピースボート共同代表）、田沼武能（写真家）、橋本佳子（プロデューサー）、服部孝章（立教大学名誉教授）、新谷英治（関西大学）、大内宏信（東京外国語大学）、池田香代子（翻訳家）、伊藤千尋（国際ジャーナリスト）、海南友子（映画監督）、森本英之、古居みずえ（フォトジャーナリスト）、土井敬邦（フォトジャーナリスト）ほか、順不同

広河隆一 Ryuichi Hirokawa

1943年生まれ。1967年にイスラエルに渡り、中東諸国を中心に海外取材を始める。1970年に帰国。以来、パレスチナ、イラク、チェルノブイリ、福島などの取材と救援活動を続ける。著書に「パレスチナ新版」（岩波新書）ほか多数。IOJ国際報道写真展大賞・金賞、土門拳賞、講談社出版文化賞などを受賞。2004年には、フォトジャーナリズム月刊誌DAYSJAPANを発刊。

東京芸術劇場

5階 ギャラリー2

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1
JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線
池袋駅西口より徒歩2分
駅地下通路2b出口と直結

広河隆一 講演「戦場の子どもたちと私」
3月9日 19時より（参加費800円／申し込み先[※]）

他地域での開催予定

- ・「大阪ドーンセンター」6/26-7/1
- ・「名古屋市民ギャラリー栄」8/28-9/2
- ・「岡山県赤磐市立中央図書館」8/11-17

広河隆一写真展事務局のホームページに、順次新情報を掲載の予定です。
<https://hirokawasyashintokaigaten.jimdo.com/>
■写真展開催希望者募集中 ■チラシ配布にご協力いただける方はご連絡ください。